

令和3年12月8日

各位

柿沼翠流 遺墨展のお礼

拝啓 初冬の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
また日頃より、故柿沼翠流ならびに書泉会の書活動に対しましてご理解、ご声援を賜り心から感謝申し上げます。

令和3年12月3日から開催をいたしました「柿沼翠流 遺墨展」が盛大に行なうことができましたことをご報告いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期の開催、そして、今も尚コロナ禍ということで不安を感じながらの開催となりましたが、皆様のご協力のもと無事終了することができました。遺墨展来場者の人数は1050人と、たくさんの皆様にご高覧いただきまして感謝の気持ちでいっぱいです。

遺墨展では、柿沼翠流の作品67点、そして、ご子息である書家・現代アーティスト柿沼康二の特別作品1点を展示し、書の世界を超えた空間を皆様にご披露できたのではないかと考えております。柿沼翠流の代表作である、「はふり火…」、「滅」、「母」は、今までに展示した時とはまた違う光が射し、爽やかな風が感じられました。

そこに、柿沼康二の作品「開」が「ひらけ！ひらけ！ひらけ！」と、新たな世界へと扉を開け道を創りました。

書泉会創設者、柿沼翠流が他界して二年目の命日に遺墨展を開催できたことで、書泉会として最後のお別れ、そして、新たなスタートと位置付けられた遺墨展となり、とても楽しく大満足の遺墨展となりました。

柿沼翠流遺墨展は、皆様のご協力によって最高の「書祭り」となりました。

下野新聞社様、栃木県書道連盟様、栃木県独立書人団様、栃木県文化協会様、塩谷町様、矢板市様、後援をいただきまして心から感謝を申し上げます。

ご来場された皆様、ご高覧いただき心から感謝を申し上げます。

湯山春峰堂様、日本一の作品仕上げと飾り付けをいただき心から感謝を申し上げます。

感謝感謝の遺墨展、ありがとうございました。

敬具

書道研究書泉会 共同代表 齊藤裕一  
共同代表 斎藤一吼  
理事長 石崎 享